

教科	商業	科目	経済活動と法	単位数	小学科・学年	教科書
				2単位	情報会計科・3年	経済活動と法（実教出版）
補助教材	経済活動と法 問題集（実教出版）					
学習目標	企業活動に関する法規や社会生活を営む上で関係の深い法規に関する基礎的・基本的な知識を習得させる。民法総則での法律用語の理解を通して法的に思考する能力を育て、企業法・労働法・消費者法を理解し判断する力を育てる。					

評価の規準・観点			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> なぜ経済活動と法を学ぶのかについて、自分から進んでまとめたり確認したりしようとする。 日常生活の中で、新聞等のマスコミ報道で法に関することに接して興味を持ち、法学習への意欲につなげている。 	<ul style="list-style-type: none"> 法の意義や役割について自ら考えようとする。また、法の規定に関する内容に即して具体的な事柄にあてはめ考察し、判断できる。 六法を使って問題解決の糸口を見つける手法を身につけ、事柄を客観的に把握し、問題についての思考過程や判断結果を適切に表現できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 経済活動のさまざまな分野についてほうきを結びつけて理解し、判断する基礎が身についた。 経済的な事象を法律的に考え、様々な角度から主体的・客観的に考察し、諸問題を見つけ溜ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 経済活動が憲法を最高法規とする法体系の中で営まれていることを理解し、経済活動のための法知識を理解し説明できる。 ビジネス活動のための法ばかりでなく、消費者保護法や雇用に関わる労働法規についても法知識を得て、具体的な事象に関わって理解できる。
<ul style="list-style-type: none"> 授業における態度や意欲 宿題などの提出物 	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト 学習への取組 発表 	<ul style="list-style-type: none"> 六法全書の利用 	<ul style="list-style-type: none"> 定期試験
評価の方法	授業における態度、意欲、出席状況、課題の提出、定期試験等を上記の4観点に基づいて総合的に評価する。		

学習の内容（特色を含む）			
月		月	
4	第1章 経済社会と法 ・法の役割や体系について、さらには法の適用と解釈について学習します。	9	第4章 企業活動に関する法 ・企業活動の主体について、営業活動の自由と制限などについて学習します。 中間試験
	第2章 権利・義務と財産権 ・権利・義務とはなにか、またその主体について学習します。	10	
5	・物と財産権について学習します。 中間試験	11	・サービス関連企業について学習します。 ・株式会社と法について、さらには手形や小切手と法について学習します。 期末試験
	第3章 財産権と契約そしてその保護 ・取引と契約について、さらには契約の意思表示について学習します。	12	
6	・物の売買について学習します。 期末試験	1	第5章 社会生活に関する法 ・消費生活や労働、さらには家族と法について学習します。
7	・物の貸借について学習します。	2	第6章 紛争の予防と解決 ・紛争の予防および解決について学習します。 学年末試験
9	・契約によらない財産権の変動 ・財産権の保護について学習します。	3	

担当者からのメッセージ及び特色
1 授業では たくさんある法律の中で民法を中心に学習していきます。 分かりやすい授業のため、身近なことを取り上げていきたいと思ひます。また、六法を積極的に活用していきたいと思ひます。
2 家庭では ニュースなどにより、法律関係の事柄に興味を持ってもらいたいと思ひます。
3 その他 新聞記事にも目を向けていけたらと思ひます。